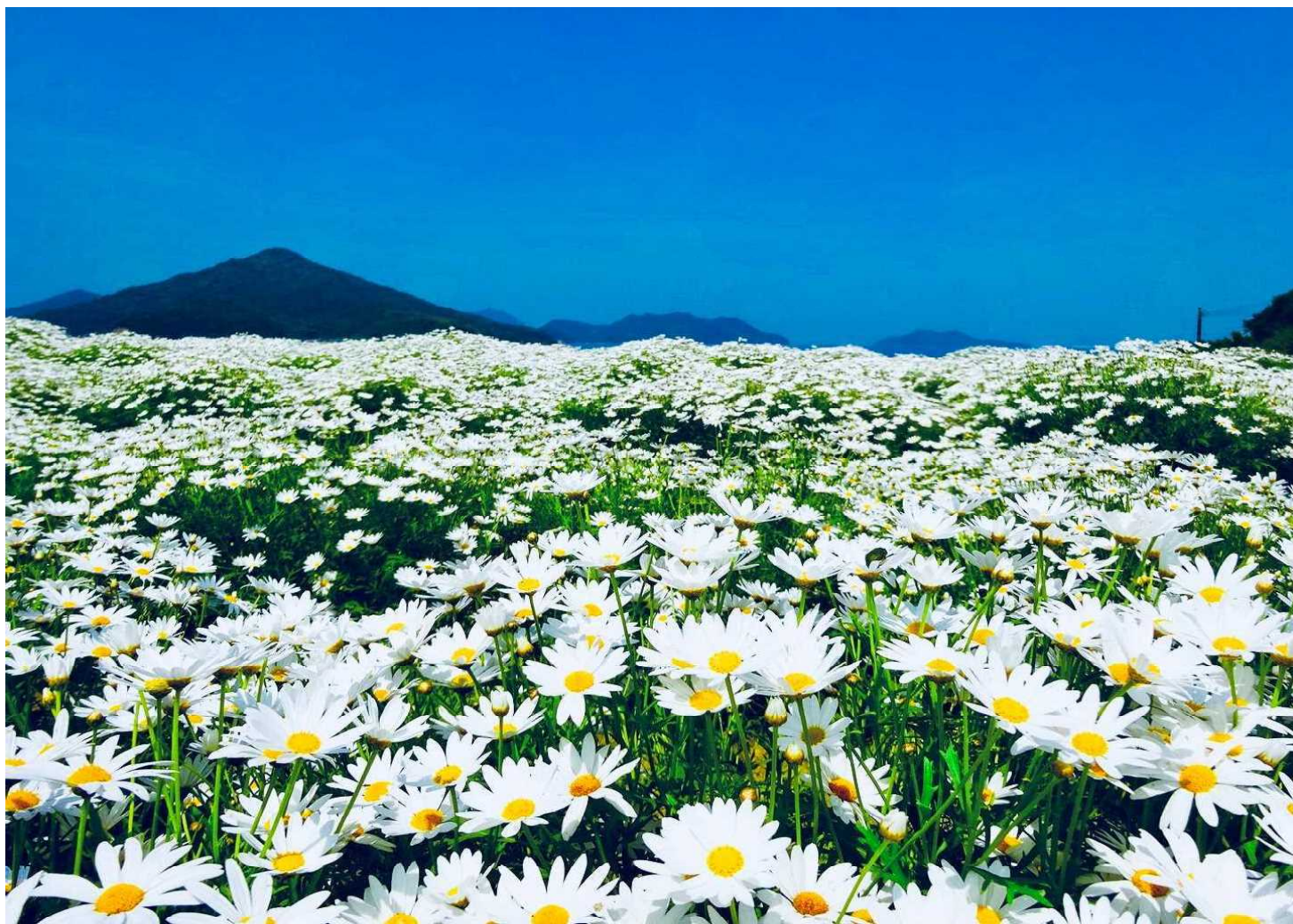
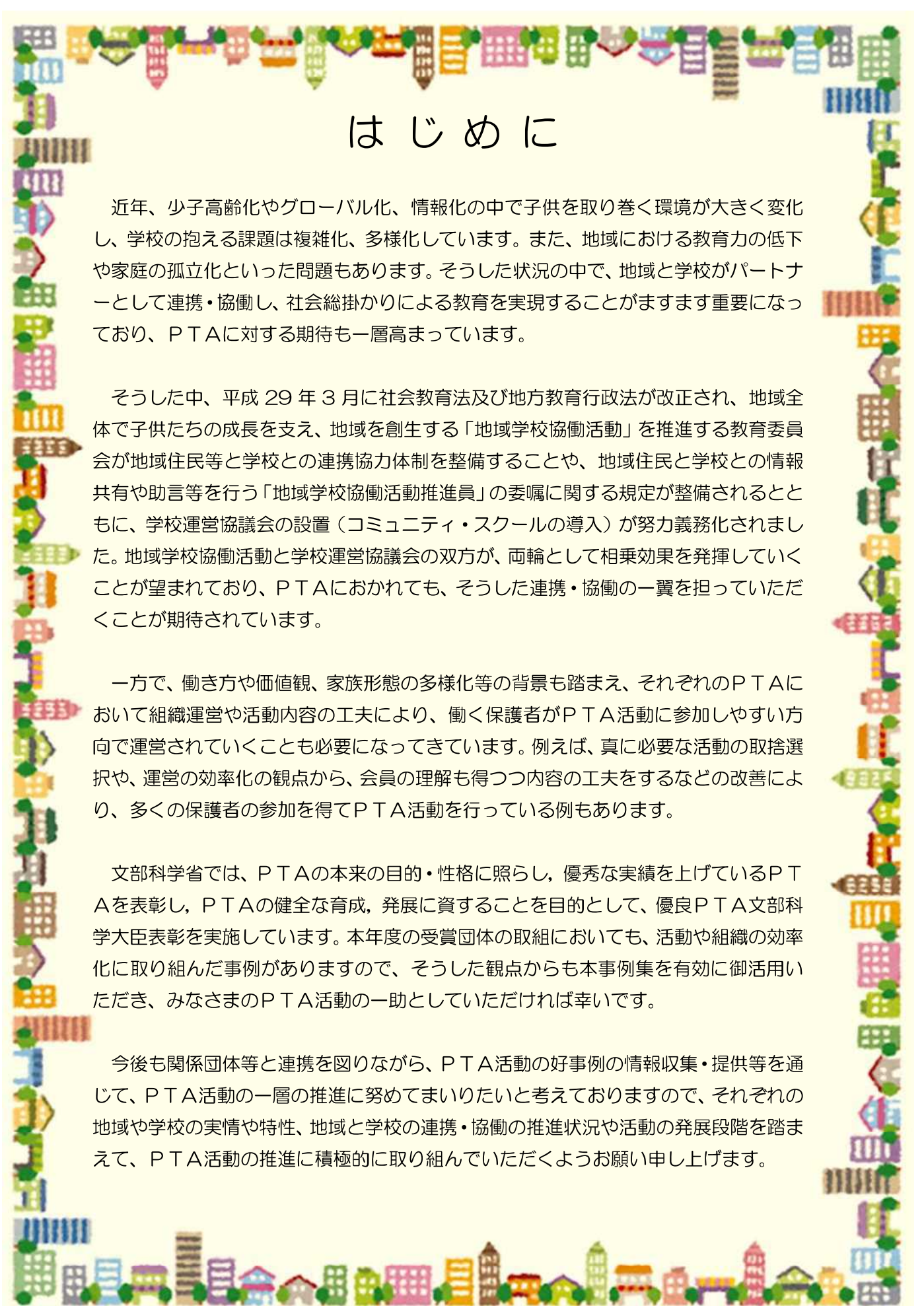


# 平成29年度 優良PTA文部科学大臣表彰 実践例



文部科学省  
生涯学習政策局  
社会教育課



# はじめに

近年、少子高齢化やグローバル化、情報化の中で子供を取り巻く環境が大きく変化し、学校の抱える課題は複雑化、多様化しています。また、地域における教育力の低下や家庭の孤立化といった問題もあります。そうした状況の中で、地域と学校がパートナーとして連携・協働し、社会総掛かりによる教育を実現することがますます重要になっており、PTAに対する期待も一層高まっています。

そうした中、平成29年3月に社会教育法及び地方教育行政法が改正され、地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を推進する教育委員会が地域住民等と学校との連携協力体制を整備することや、地域住民と学校との情報共有や助言等を行う「地域学校協働活動推進員」の委嘱に関する規定が整備されるとともに、学校運営協議会の設置（コミュニティ・スクールの導入）が努力義務化されました。地域学校協働活動と学校運営協議会の双方が、両輪として相乗効果を発揮していくことが望まれており、PTAにおかれても、そうした連携・協働の一翼を担っていただくことが期待されています。

一方で、働き方や価値観、家族形態の多様化等の背景も踏まえ、それぞれのPTAにおいて組織運営や活動内容の工夫により、働く保護者がPTA活動に参加しやすい方向で運営されていくことも必要になってきています。例えば、真に必要な活動の取舍選択や、運営の効率化の観点から、会員の理解も得つつ内容の工夫をするなどの改善により、多くの保護者の参加を得てPTA活動を行っている例もあります。

文部科学省では、PTAの本来の目的・性格に照らし、優秀な実績を上げているPTAを表彰し、PTAの健全な育成、発展に資することを目的として、優良PTA文部科学大臣表彰を実施しています。本年度の受賞団体の取組においても、活動や組織の効率化に取り組んだ事例がありますので、そうした観点からも本事例集を有効に御活用いただき、みなさまのPTA活動の一助としていただければ幸いです。

今後も関係団体等と連携を図りながら、PTA活動の好事例の情報収集・提供等を通じて、PTA活動の一層の推進に努めてまいりたいと考えておりますので、それぞれの地域や学校の実情や特性、地域と学校の連携・協働の推進状況や活動の発展段階を踏まえて、PTA活動の推進に積極的に取り組んでいただくようお願い申し上げます。

## P T A 運営効率化の事例

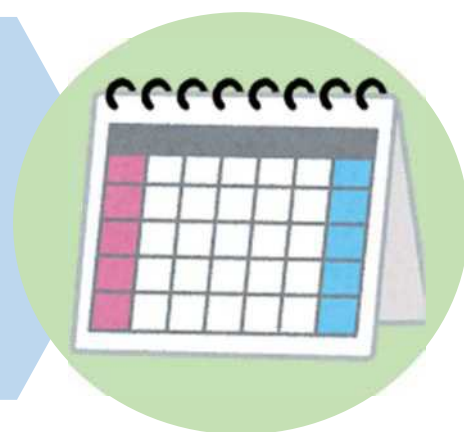


これまで継続されてきた各種活動の伝統を重んじながら、時代の変化に応じて会員が参加しやすい形になるよう継続的に調整している。委員会を休日開催にしたり、専門部会の開催件数を減らすなど、地域と学校の実情に応じて会員が無理なく参加できるよう心掛けた。

(9ページ 文京区立湯島小学校 P T A)

保護者のほとんどが参加する学校行事等に合わせて P T A 行事を設定するなど、学校行事を意識した P T A 活動のスケジュール設定を行うことで運営の効率化を図った。

(13ページ 袋井市立笠原幼稚園 P T A)



会員間における情報共有が効率的に実施できるよう、I C T 機器や SNS 等のサービスを有効に利用し、会員同士が気軽に意見交換できるよう心掛けた。

(26ページ 沖縄県立鏡が丘特別支援学校 P T A)



# 札幌市立開成小学校 父母と先生の会

## 「すべては子どもたちのために」

所在地：北海道札幌市  
全校生徒数：児童 551名

<b>学校の特徴</b>	昭和55年に創設され、『人間性豊かな開成の子どもの育成』を教育目標に学校づくりを進め、今年度開校37周年を迎える。 「出会い・ふれあい・思いやり」を大切にし、「心身共にたくましい子ども」の育成を図ることを今年度の重点目標とし、 ～どの子ども汗を流し、あいさつ・歌声がひびきあう学校～ を目指している。
<b>地域の特徴</b>	昭和47年に札幌が政令指定都市に移行して誕生した「東区」に位置している。明治初期から多くの先人が鉄をふるった大地には住宅が建ち並び、近代的な住宅街へと変ぼうしてきた。開校以来、保護者及び地域の方々が一体となって、温かく子供たちを見守る風土が根付いている。近年、交通安全や防災等に関する取組における学校との連携・協力体制はさらに深まっている。
<b>活動内容</b>	役員会（PTA事務局、校長、教頭、担当教諭で構成）と運営委員会（役員会構成員、学級代表・文化・広報・フェスティバルの各委員会代表、開放図書館司書、家庭教育学級学級長、OYA-G'の会会長で構成）で企画・立案及び審議を行い、各委員会等が会員相互との連携を図りながらPTA活動を進めている。

### 特徴的な活動

#### 防災シミュレーション～OYA-G'の会～

- 【開催時期】9月下旬
- 【開催場所】開成小学校（体育館・グラウンド・1階教室等）
- 【取組内容】災害時に避難所となる学校体育館で、水や食料を制限し、災害時に近い形で一夜を過ごす。地域・関係機関との連携・協力あり。
- ★消防署職員による放水訓練・車両見学・消火訓練体験



★昨年は、地域の方々も参加し、学校防災施設の見学や高学年の児童と避難所開設体験も行った。低学年は、「避難便利グッズづくり」を実施した。



#### 学校図書館の地域開放 ～ちっぽりーの～

- PTA・地域のボランティアが多く参画
- \*全学年向け読み聞かせ  
朝の読書（各学級、年3回）
- \*低学年向け読み聞かせ  
「おはなしくれよん」（年6回）
- \*本をたくさん読んだ子供への賞状作成
- \*冬のお楽しみ会（クリスマス会）  
1・2年向け・3年以上向け  
読み聞かせや茶プレゼント
- \*季節に合わせた図書館壁面装飾



#### ふれあいフェスティバル IN開成

- フェスティバル委員を中心に  
全PTA会員で準備・運営
- \*縁日・バザー・お化け屋敷 など  
（各学年PTA・OYA-G'の会）
- \*古本市（図書室 ちっぽりーの）
- \*和太鼓打ちパフォーマンス
- \*空手演武
- \*ティッシュケース、手編み帽子や手提袋などの手作り品販売



#### 成果と課題

- <成果>学校や地域・保護者との連携が深まり、交通安全指導や児童の見守り、ベルマーク活動等、イベントのみではなく日常的にも積極的にPTA活動が進められている。
- <課題>働く保護者の増加により、PTA役員・委員の選出に苦慮している現状があることから、働いていても参加しやすいPTA活動となるよう工夫改善が必要である。

【北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課】

# 認定こども園百石幼稚園父母の会

## 「地域とともに」学び、成長する父母の会！

所在地：青森県おいらせ町  
全校児童数：園児109名

<b>学校の特徴</b>	自然の中でたくさん遊ぶことを中心に、多様な体験を行いながら、心情・意欲・態度を育てている。
<b>地域の特徴</b>	人口25,000人の農業・漁業を主とした産業の町である。園のある旧百石地区は、近隣市に通う自衛隊・日本原燃関係者の居住も多く、転出入も激しい。
<b>活動内容</b>	父母の会は、役員の他6つの「隊」(片づけ隊、手伝い隊、守り隊、育て隊、作り隊、数え隊)で構成。保護者は1つ以上の隊に所属し、主体的に活動に参加。

### 特徴的な活動

#### 「百幼大学子育て学部」

- 会員のみならず、広く地域の子育て関係者とともに学ぶ機会として「百幼(ももよう)大学子育て学部」を開設し、食事や健康、しつけなど子育てに役立つ学びの場を提供している。(平成28年度は計11回、のべ123名が参加)



百幼大学子育て学部、テーマ食育「手作り味噌づくり」

#### 「おいらせ探検バスツアー」

- 地元出身者でない保護者も多いので、地域を知るために「おいらせ探検バスツアー」を企画し、地域の産業や歴史などを勉強する機会を設けている。  
地域の良さを知ることができたと好評である。

#### 父母の会活動 ガイドブックの配布

- 【配布時期】入園式(4月)
- 【取組内容】  
年度末に、会員が父母の会の活動に寄せた文集「おもいでブック」を発行。その文集を新年度入園する保護者に向けて、「父母の会活動ガイドブック」として配布している。



「百石幼稚園おもいでブック」

#### ○地域活動への協力

守り隊による交通安全推進活動や、父親会や手伝い隊による地域へのお祭り参加の手伝いなど地域活動へ積極的に協力している。

#### ○地域通貨「ももマネー」

バザーでは、子どもが手伝いをしたりベルマークなどを持参したりすると獲得できる児童のみ対象の地域通貨「ももマネー」を発行し、おこづかいがなくても子どもたちが楽しめるようにしている。様々な家庭の子どもへも配慮し、子どもの居場所づくりの一端を担っている。



「ももマネー」を受け取る卒園児

#### ○その他の活動

- ・父親が交流し、父母会活動をスムーズに執り行うための「父親会」を開催
- ・保護者の学習活動として、「ママを磨こう講習会」を開催

### 成果

- ・できる人ができるときにできることをやるという活動の仕方により、無理なく参加することで、主体的な取組が行われるようになった。
- ・様々な勉強会により保護者同士のコミュニケーションがよくとられるようになり、PTA活動に積極的・協力的に取り組むようになった。
- ・地域活動への協力や子どもの居場所づくりなど、地域社会の振興にも貢献している。

### 課題

幼稚園の父母の会会員は、およそ2～3年という短い期間で卒園とともに変わっていくことから、良い活動を次にどう継続していくかが課題となっている。今後は卒園後の保護者も積極的に参加いただけるような、より地域に根差した会になるよう、連絡手段を確保するなど工夫を行っていく。

【青森県教育庁生涯学習課】

# 釜石市立栗林小学校PTA

## 地域全体で子どもを育てる教育文化の継承と発展

所在地:岩手県釜石市 / 全校児童数:48名

<b>学校の特徴</b>	明治10年に開校。今年度で141年目を迎えている。平成2年には全日本健康優良校特別優秀校を受賞。「今、ここに生きる子どもたちを 心も体もたくましく ○『よく考えやりぬく子』 ○『豊かな心と思いやりのある子』 ○『健康で明るい子』」を学校教育目標として教育活動を展開している。
<b>地域の特徴</b>	本校の学区は釜石市の中心部から北西約15～30kmの山間の地にあり、鶴住居川の中上流に位置する。世界遺産の橋野鉄鉱山を有するほか、江戸時代中期に道路開削の先覚者として活躍した牧庵鞭牛の隠居屋敷があるなど、多くの地域資源に恵まれている。地区住民の学校に寄せる関心と愛着は強く、PTAが中心となって展開する地域ぐるみの教育が継続されている。
<b>活動内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産等の地域資源を活用した豊かな体験活動</li> <li>地域一体となった郷土芸能伝承活動の継続実施</li> <li>PTA広報紙の定期発行と学区内全域配布</li> <li>学校内外の環境整備活動の積極的実施</li> <li>厚生部、文化部及び父親部による専門部会活動</li> <li>各地区活動及び各学年親子行事</li> <li>健康教育の推進及び関係機関との連携</li> <li>図書ボランティアとの連携による子どもの読書活動の推進</li> <li>学区住民への協力会員加入依頼</li> </ul>

### 特徴的な活動

#### 親子で学び合う豊かな体験活動

- 地元で鶴住居川でいかだ活動等を行う「川遊び」 ※前日は河川整備作業
- 地域の歴史や文化等について学ぶ「ふるさと地域学習会」
- 小正月行事を体験して伝統食を味わう「餅つき大会」 ※前日は会場準備作業
- 組織毎に創意工夫し、多彩な内容で行う「各地区活動及び各学年親子行事」



#### 学校教育を支える充実の活動

- 森林学習の事前準備と当日の支援
- 伝統芸能の装具や小道具作り
- 運動会関係物品の作製、会場設営、撤去及び実施時の運営補助
- プール当番と校内マラソン大会の監察
- 学習発表会前日準備作業(文化部)



#### 郷土芸能の伝承活動の継続実施

- 保存会の協力による地域一体となった伝承活動の継続
- 運動会での学区内全3地区の伝統芸能演奏



#### 健康教育の推進(厚生部)

- 廃油石鹸作り(年2回)
- 心肺蘇生講習会、健康講座



#### 環境整備活動(父親部)

- 植樹を行う山林の整備
- 校庭の草取り及び排水設備の修復作業等

#### その他のPTA活動

- 合唱練習と学習発表会での披露
- 図書ボランティアによる読み聞かせと読書環境の整備



### 成果

- 親子で学び合う豊かな体験活動をはじめとする多彩な活動を展開することによって、子どもや保護者と地域社会の交流が深まり、地域活性化の一翼を担っている。
- 地域団体との連携及び学校を支える活動により、教育環境が維持及び改善されている。
- 文化部と厚生部の活動が定着してきたことに加え、父親部の充実した取組によってPTA活動や学校教育への理解が深まっている。

### 課題

- ◆ 今後も現代的課題について保護者や学区住民が学習する機会を設け、子どもの健全育成に繋がる家庭・地域の教育力の向上に継続して取り組んでいく必要がある。
- ◆ 児童数の減少を見据えながら、実態に即した組織改革や活動内容の見直しを進めていく必要がある。

【岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課】

# 仙台市立袋原小学校父母教師会

## 学校・地域と共にある父母教師会!

所在地:宮城県仙台市  
全校生徒数:児童916名, 教職員52名

<b>学校の特徴</b>	昭和51年開校の本校は、田畑に囲まれた自然豊かな場所に建設されました。近年、宅地化により田畑が激減し、それに伴って児童数が増加、現在4学年4クラスがプレハブ校舎で学習を行っています。明るく元気な児童と里山の雰囲気の良い校舎が自慢の学校です。
<b>地域の特徴</b>	仙台市の南部に位置しています。もともとは、名取川の清流が大きく蛇行する肥沃な農村地帯でした。学校の周りには大型店や飲食店の進出も増えてきて大規模な公園の整備、駅に通じる道路の開通などにより、ますます人口が増えている地域です。
<b>活動内容</b>	ボランティア活動委員会による学校支援の取組、小中連携による障害児支援活動の実施など、保護者や地域の方の協力が本会の特徴です。

### 特徴的な活動

- ◆ 学校支援地域本部との連携によって進めるボランティア活動の取組

○ 学校を支援するための体制を構築。スーパーバイザーとの連絡体制を強化。



- ◆ 近隣学校と連携して、障害のある子供たちに対する理解の輪を広げるための取組

- キャップハンディ体験
- 障害者施設の見学
- 交流会
- 会報の発行
- 募金活動



冬のクリスマス会



夏の交流会

【各学年による親子PTA行事の実施】

- ◆ 親子の絆を深める活動
- ・ 給食試食会
- ・ 親子でストレッチ
- ・ 腸を整えて健康生活
- ・ 命のはじまり



### 成果

学校と多く関わりをもつことで、自分の子供がどんな活動をしているのかがよくわかるようになり、共通の話題にもなっている。また、学校の重点目標である「基本的な生活習慣の確立」をより強く意識するようになってきた。さらにボランティアとして参加することにより、異学年の保護者同士のつながりもでき交流の輪を広げることができた。

### 課題

協働型学校評価の重点目標であるノーゲームデーや読書活動、あいさつ等についてもっと学校と連携を密にして共通行動がとれるようにしたい。

【宮城県教育委員会生涯学習課】

# 能代西高等学校PTA

## 「地域社会に貢献し自立できる生徒」を育む協働的活動

<b>学校の特徴</b>	昭和20年創立。前身は能代農業高等学校、平成6年度には能代西高等学校と改称、平成10年度から東北地区唯一の総合学科に改編された。100を超える選択科目があり、5系列の専門的な知識や技術を身に付けられる小規模校である。本校農場は開放時期には、2千人以上の地域の方々や菜の花・ひまわり・コスモスの畑や牛・ポニー・比内地鶏等施設見学に来校し、憩いの場になっている。
<b>地域の特徴</b>	世界自然遺産の「白神山」の麓に位置する農業地域で、白神ネギの一大産地に隣接し、稲作や蕎麦の栽培も盛んである。
<b>活動内容</b>	年4回の役員会、PTA総会の意見をもとに、学校目標に従って、地域産業や総合学科の特色を生かした行事の立案・運営を図り、生徒が地元のよさを見直し、自分の考えを表現し行動できる社会人になれるようにサポートしている。PTA活動は強制せず、自主的な参加をモットーとする。
<b>特徴的な活動</b>	<p><b>「地域と生徒を巻き込むPTA交流活動」</b> ～ソバの栽培からソバ打ちそして試食～</p> <p>○地域力 地元の蕎麦では石川と鶴形の2地区が有名である。同窓生の石川ソバ打ち名人に講師を依頼している。</p> <p>○生徒力 平成13年から農場で、ソバを1ha以上実習栽培。領域「産業社会と人間」で全員がソバ打ちを体験。</p> <p>○経緯 平成21年度に保護者の行事参加率向上と、気軽に来校できる雰囲気づくりを目的に取り組み始めた。現在では能代地区恒例行事となり、他地区の参加者も多い。</p> <p>○交流活動 7月下旬の種まきでは、施設見学や園芸教室を通して、ソバの生育から農業全般まで情報交流が行われている。11月下旬のソバ打ちでは、農業クラブの生徒が補助員となり、他校も含めたPTAのソバ打ちを指導し、できたソバを食べながら情報交換を行っている。</p>
<b>成果と課題</b>	<p>・ソバ作りを通して能代地区の各高校PTAの交流が深まり、高校生の健全育成に役立っている。</p> <p>・保護者が行事の際に生徒の成長ぶりを再認識して学校への信頼が増し、更なる協力の原動力になった。</p> <p>・役員を中心とした行事企画には限界があり、より多くの保護者が参画できる仕組みづくりを工夫したい。</p>

**○地域の関係機関と連携した取組**  
「環境宣言サミット(みんなが主役)」H21総合学科だからできる循環型環境社会を目指して、PTA・同窓会・市職・県職・大学教授を招いて4分科会のシンポジウムを開催した。

**○地域の繋がりを考える取組**  
H28東北地区交流大会を企画し、地域とともに生きていくため「現状認識と魅力再発見」をサブテーマに、藤里町社会福祉協議会の取組を事例として取り上げて研修を重ねた。

**○その他の活動**  
・地区自治会との環境美化運動「花いっぱい運動」  
・JR駅前や正門前で「登校時一声あいさつ運動」  
・3年生対象のPTA役員による「進路対策模擬面接」  
・農場食材を使った文化祭「もちつき」「だまこ汁」作り  
・5系列による「課題研究発表会」の参観 等

所在地: 秋田県能代市真壁地字上野193番地  
生徒数: 238名(3学年×3クラス)

【秋田県教育庁生涯学習課】

# 遊佐町立高瀬小学校PTA

## 子どもとつながり、地域とつながるPTA

所在地: 山形県遊佐町  
全校児童数: 81名

<b>学校の特徴</b>	明治7年に開校した常恩学校が前身で、今年創立143年目を迎えた伝統ある学校である。近年は、少子化が進み、児童数の減少が続いている。明るく元気な児童が多く、進んであいさつをし、清掃にも一生懸命取り組んでいる。
<b>地域の特徴</b>	遊佐町は、日本海に面し「日本百名山」の1つ鳥海山の麓にあり、庄内平野の北部に位置している。地域の人たちは、学校に対する思いや関心が非常に高く、何事にも協力的である。学校と地域が密接な関係にあり、連携と協働が進んでいる。
<b>活動内容</b>	子どもたちや地域とつながったPTA活動が、積極的に行われている。地域とともにある学校を目指し、学校・家庭・地域が一体となった活動を展開している。

## 特徴的な活動

～学校・家庭・地域が協働し育む高瀬っ子～

### 「高瀬っ子 学習活動での育み」へ向けた取組み

#### 「キャリア教育の推進」

各学年で保護者を講師として迎え、仕事内容や働くことの充実感・苦労などを子どもたちに話したり、体験させたりするキャリア講話を行っている。学年の発達段階に応じた職業観・労働観を育成している。



#### 「読書活動の推進」

保護者による学校での読み聞かせや家庭での親子読書、親子で借りるこの1冊など、全学年で行っている取組みは、豊かな感性と思考力・想像力を育てるだけでなく、親子のコミュニケーションを深め、絆を高めることにもつながっている。



### 「地域で見守り育む 高瀬っ子」へ向けた取組み

#### 「高瀬っ子を守る会とPTAが連携」

登下校や地域での活動における安全確保に向け、青色パトロール隊の巡回や地区区長会・PTA合同の危険箇所検討委員会、高瀬っ子を守る会などでの情報交換など、多方面から高瀬っ子の安全に向けた取組みを行っている。



### 「高瀬っ子 地域の良さの再発見」へ向けた取組み

#### 「自然教室への支援」

4・5年生で行われる「自然教室」は、PTA・地域との連携・協力のもと、自然環境を生かした活動が行われている。いかだ下りや高瀬峡ハイキングは、事前学習から当日の活動まで指導者として協力をしている。



#### 「学年親子行事への支援」

「高瀬の風を利用したペットボトル風車-2年生-」や「遊佐町親子サイクリング-3年生-」「鳥海登山-6年生-」など地域素材を活用した学年親子行事は、親子の絆を深め、地域の良さの再発見へとつながっている。



## 成果

PTAの各活動は、会員一人一人の参加意識や学校や地域への関心の高まりにつながり、PTA活動を身近なものと感じることができた。また、子どもたちも地域の良さを知り、地域に支えられていることの実感へとつながっている。地域を愛する心が育ってきている。

## 課題

児童数の減少にとまじり、PTA組織の再編成を2年前に行った。今後も会員数に応じた組織で、行事や活動の見直しを図りながら、PTA活動を充実させていくことが課題である。

# 埴町立埴小学校 「埴小学校父母と教師の会」

## 子ども達の夢実現のために! ～学校・家庭・地域みんなで～

所在地：福島県東白川郡埴町大字台宿字下川原5番地  
児童数：274名

学校

昭和23年に埴小学校として開校。平成30年度には70周年を迎える。校訓「敬愛信」を定め、教育目標「～夢・希望に向かって～かがやく目・あふれる笑顔・ひかる汗」を目指して、学校だけでなく、保護者や地域住民を巻き込んで教育活動を展開している。特に体験活動は、本物にふれる活動として、地域住民を地域の先生として、より充実した内容になるよう工夫している。

地域

北には米山、南には風呂山、東には鮎で有名な一級河川の久慈川の清流が流れ、とても豊かな自然に囲まれている。保護者や地域住民は、学校に協力的で、「子ども達のために協力する!」という体制が整っている。PTAとしての活動だけでなく、関係諸団体との会議等も実施され、子どもを取り巻く現状を把握し、その課題に対する改善策を話し合うなど、子ども達の安全・安心についての取組が行われている。



子どもの安全・安心のためには!

### 活動内容

会長を中心に、PTA活動全体を見通して企画・運営を行っている。4つの専門委員会及び学年委員会では、それぞれの委員の意見や考えが反映されるよう、会議を開催し共通理解を図りながら進めている。

#### 学校教育及び家庭教育に関する活動

- ・学年行事（親子での体験活動）
- ・土曜授業（授業参観・引き渡し訓練）
- ・救急救命講習（PTA）
- ・田んぼの学校（地域・保護者の協力）



お米たくさん獲れるといいなあ～

来年は子ども達も一緒に!

#### 地域の教育環境改善に関する活動

- ・奉仕作業（PTA+Cによる除草・清掃活動）
- ・通学班相談会（方部委員との連携）
- ・民生児童委員との懇談会（情報の共有）
- ・児童の安全確保に関する会議（区長・安全指導員等も参加）
- ・学校保健委員会（保護者・地域代表も参加）



むし歯治療率up  
肥満率down

#### 児童の学校外での諸活動

- ・あいさつ運動（近隣高校との連携）
- ・産業祭（音楽クラブ地域行事への参加）
- ・収穫祭（保護者や地域の方々へ感謝の会）



お兄さん、お姉さんも見守ってくれています!

日頃の練習の成果を地域の皆さんに!

成果

学年行事や体験活動など、保護者や地域住民のご協力により、有意義な活動ができています。また、田んぼの学校や児童の安全確保に関する会議、学校保健委員会等、学校を含めた地域の教育力、安全意識の向上に寄与している、安全に関して、横断歩道や押しボタン式信号の設置等の成果をあげています。

課題

「委員や役員は負担が大きい」という意識や「参加者の固定化」という一面も見られ、魅力ある取組を創造していく必要がある。また、継続・発展したPTA活動になるよう、地域を巻き込み、人材や素材の発掘や活用、時代のニーズに合わせた試みも積極的に取り入れていく必要がある。

福島県教育庁社会教育課

## 那珂市立第四中学校PTA

所在地：茨城県那珂市菅谷2476番地 全校生徒数：430名



わかすぎ学園新章(学園シンボルマーク)

### 学校と家庭・地域をつなぐ生徒のためのPTA活動を実践

学校の特徴	地域人口・中学校生徒の増加により、昭和61年4月、那珂町(平成17年那珂市に変更)立第四中学校として開校。現在、那珂市内中学校で最大の生徒数を誇る。また、平成27年度より小中一貫校として、わかすぎ学園那珂市立第四中学校の名称となり、地域住民と密着し、親しまれ愛着のある学校、「創意と活力に満ちた教育の推進」を学校教育方針に掲げ、教育のみならずスポーツ活動も活気あふれる中学校です。
地域の特徴	那珂市は茨城県のほぼ中心部に位置し、那珂市の北側には久慈川が西から東へ、西側には那珂川が北西から南東へと流れています。那珂市の地形は、この一級河川の沿岸に広がった広大な水田地域と、中央に広がった那珂台地からなっています。
活動内容	役員会・運営委員会・各委員会を中心に保護者、教職員の全員参加で、活気あふれる活動組織を目指しています!!

#### 主なPTA活動

##### ☆「家庭のルール見守り隊」を結成

社会問題になっている携帯・スマホ等の利用方法を、生徒と家庭が向き合って話し合いの出来る環境づくりを推進。話し合いの結果は「家庭内ルール」宣誓書として学校に提出し、約束の守れる生徒たちをバックアップしています。

##### ☆PTA定期広報誌「萌木」の編集・発行

年間3回の発行を通して、会員家庭のみならず、地域の関係各団体に配布し、学校行事、PTA活動、地域活動の様子を発信しています。



#### 地域活動にも貢献

##### ☆「わかすぎ学園連絡協議会」の活動

小中一貫校として、学園内PTA(那珂四中・菅谷小・菅谷東小)共催によりイベントや講演会を実施しています。

##### ☆「菅谷地区まちづくり委員会」事業へ参加

「カルチャー教室」「歴史講座」「新春かるた会」等の企画・運営に携わっています。

##### ☆PTA役員OBの協力があります

朝の通学路立哨で児童・生徒の安全確保はもとより、部活動終了後の楽しいイベント、手打ちうどん体験等も企画してくれます。



○カルチャー教室



○学園内通学路立哨



○部活動後のイベント

#### 成果

※ 学校と教職員、保護者が密な連携を図り、生徒のための組織として、一定の効果を感じることができている。

※ 学校内や各家庭のみならず、地域や関係各団体にも積極的に情報を発信することによって、期待以上の協力が得られ円滑な活動が出来ている。

#### 課題

※ 今後は、本校PTA活動のみに留まらず、学園内3校がさらに連携を図り、小中一貫校としての強みを生かし、体制を強化しながら活動していきたい。